

## 国際交流・学生支援基金（仮称）について

今日の社会や産業のグローバル化の進展は著しく、規模の大小を問わず企業の営業や生産の拠点が大きく海外にシフトしてきており、産業界からは、創造性に富んだ実践力、コミュニケーション能力などを備えた国際社会で活躍できる人材の供給が強く求められています。

中央教育審議会答申におきましても、「産業・経済や技術が国際的な広がりを含め、これに伴い技術者も国境を越えている現状から、高等専門学校においても、国際的に活躍できる能力を持った技術者等の養成のための教育が求められている。」(平成20年12月)とし、高専機構の第2期中期5ヶ年計画では、学生の国際交流の積極的な推進を図ることとしております。

本校では、これらの状況を踏まえ、国際交流の充実が喫緊の課題と考え、昭和63年11月に中国河南省鄭州市の中原工学院と学術交流協定を締結して以来、平成21年12月には、米国コロラド州のレッドロックコミュニティカレッジ及びフランス・リール市のリールA技術短期大学と、平成24年2月には、東北地区の他の5高専と共同でフィンランド国のヘルシンキ応用科学大学、トゥルク応用科学大学と、また6月には、東北地区5高専及び函館高専と共同でフランスのアルトワ大学と学術交流協定を締結したところです。

また、高専機構本部も順次各国の大学等との学術交流協定を拡大しており、現在、シンガポールの5ポリテクニク、タイのキングモンクット工科大学ラカバン校、香港のVTC（香港職業訓練協議会）、台湾の5大学、インドネシアのスラバヤ・ポリテクニクと協定を締結しているところです。

本校は、これらの協定に基づき、短期留学や海外インターンシップ等を体験させること、あるいは海外から受け入れた学生との交流を積極的に推進してまいりました。

海外に留学した学生は、「異文化、それに加え日本の良さ、視野が広がり自分を成長させることができる良い機会」との感想を述べております。

また、本校が受け入れた海外からの学生と身近に交流した学生は、最初は遠慮気味だったのが接してみると「自分の英語が通じる」と自信が芽生え、積極的にコミュニケーションをとるようになるなど、国際交流プログラムは非常に好評であり、このような機会を今後とも積極的に学生に提供していくことが重要と考えています。

さて、これらの国際交流プログラムを安定して継続し、更には拡充させていくためには、何よりもまず、必要な予算の確保です。

より多くの学生に海外を経験させ、コミュニケーション力を有する国際的に活躍できる人材の育成を図るためには、資金基盤の充実が必要不可欠と考えるところです。

これまで、地域の企業様、後援会、峰友会(同窓会)からのご支援をいただくほか、平成23年度及び平成24年度におきましては、本校が主体となって、東北地区6高専の共同プログラムであります「国際交流における人的交流体制の整備と強化」に関する予算を確保するなど、鋭意、国際交流の充実・強化を図っているところですが、将来の予算確保につきましては、厳しい財政事情の下、大きな不安があるのが現状でございます。

また、産学連携による共同教育の充実、インターンシップ等校外で行う教育の充実、各地で開催される教育研究集会や学会への学生の派遣等、多様な教育研究の場の提供も重要です。

更には、最近の厳しい経済・雇用情勢等もあり、経済的に学業を継続することが困難になる学生も少なからずいることも事実です。

これらの状況を踏まえ、創立50周年を機に、学生に対する一層の支援体制の強化を図るため、「国際交流・学生支援基金」（仮称）の設立を企画した次第です。